

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年7月3日

1. Nature: 今後のワクチン接種：誰が受ける必要があるのか？
2. 札幌の最新下水モニタリングデータ

【松崎雑感】

今後の新型コロナワクチン接種対象をどうするか論議を紹介します。全年齢か、中高齢者限定かという論議がなされています。日本では高齢者に勧奨し、若い人々は希望により受けることができるという感じです。

下水サーベイランスによると、札幌のコロナの波は峠を越えたかもしれませんが、前回の波の半分程度まで増えていました。インフルエンザはしっかりおさまっています。

今後のワクチン接種：誰が受ける必要があるのか？

Kozlov M. **New COVID jabs are coming - who should get them?** [published online ahead of print, 2023 Jun 29]. *Nature*. 2023;10.1038/d41586-023-02188-2. doi:10.1038/d41586-023-02188-2

ハイリスクの人々に接種対象者を限るべきかどうか検討中

免疫低下に備えて、各国の公衆衛生当局は、ブースター接種の開始を検討している。しかしすべての人々を接種対象とすることにならないようだ。

新型コロナ緊急事態宣言は解除され、流行は減っており、当局はワクチンをどのような人々に接種するかを検討している。重症化と死亡のおそれのある人々にする予定の国もあれば、すでにそうすることを決めた国もある。

専門家らは、これまでのワクチン免疫と自然感染免疫によって、ほとんどの人々が重症化と死亡を防ぐことのできる状況となっていると判断している。WHOのワクチン専門家アネリーズ・ワイルダー・スミス氏は、このような免疫レベルが獲得されたこと、そして、「パンデミック疲れ」が蔓延していることで、「世界は、これまでと異なる対応をする必要がある」と語っている。

しかし、すべての人々に接種をすべきだと決めた国もある。できるだけ幅広い人々にワクチンを接種することが、弱い人々を守ることにつながると主張する専門家もいる。

免疫が低下するからできるだけ多くの人々に接種をと言う意見

2022年末から、多くの国でオリジナル株と初期オミクロン株を対象とした二価ワクチン接種が始められた。

このワクチンは重症化と死亡リスクを大きく低下させるが、免疫レベルは急速に低下することが分かっている。CDCによれば、入院防止効果は、接種2か月後で62%、4か月後に24%まで低下するという。

これから冬に向かう北半球における感染の波を防ぐために、ブースター接種キャンペーンが始まっている。ワクチンメーカーは、最近のオミクロン株だけをターゲットとした一価ワクチンの製造を開始している。

このワクチンは、昨年の二価ワクチンよりも、現在流行中のオミクロン派生株に適合したものとなっている。

しかし、一般の人々のワクチン接種への意欲は、免疫レベルと同様に低下している。アメリカの二価ワクチン接種率は17%に過ぎず、欧州連合諸国のブースター接種二回完了率は14%にとどまっている。

このような低接種率加えて、ポリオワクチン接種事業に対する悪影響を懸念した公衆衛生当局は、今後のブースター接種キャンペーンに力を入れるようになっており、ワイルダー・スミス氏は語った。

「怖れることは何もない。限られたリソースを活用して新型コロナワクチンのブースター接種率を最大限に上げるための対策を行うべきである」と彼女は語った。

それはかえってまずいのではないかという意見

このようなワクチン接種と流行状況に基づき、WHOの委員会は、3月に、高齢者、ヘルスケアワーカーなどの感染ハイリスクグループに定期的にブースター接種を行うべきであるという勧告を発表した。

しかしこの勧告では、ブースター接種を一回接種済みの60才以下の健康な人々に新たなブースター接種を行う公衆衛生上のメリットはないとしている。

さらに、この勧告は健康な小児に対する接種も奨励していない。まだ一回もワクチンを接種していない子どもに対しても奨励していない。

WHOは、小児に対する新型コロナワクチンのメリットは、麻疹など他疾患のワクチン接種のメリットにはるかに及ばないという認識である。

保健当局は、新型コロナブースターワクチンの安全性を繰り返し強調しているが、フィラデルフィア小児病院小児科医でワクチン専門家のパウル・オフイット氏は、「健康な人々にさらにワクチンを接種しても害はそれほどないが、効果もあまり期待できない」と述べている。

必要以上に多くの人々にワクチンを投与することは、資源の無駄であるばかりでなく、すべての年齢層に明らかな効果をもたらすインフルエンザワクチン接種事業を妨害するおそれがあると彼は主張している

（あれこれのワクチン接種回数が増えると、一般市民にも接種担当スタッフにも負担が増えるため、本当に必要なインフルエンザワクチン接種率が低下するという意味だろう：松崎）。

50才以上限定接種と言う意見

この考えに沿って対策を進める国がすでに出ている。イギリスは2月に、50歳未満の人々へのブースター接種停止を決めている。フランスやスウェーデンでも、この秋に50歳以上限定で一価ワクチン接種を行う予定のようだ。

一方、アメリカの保健当局は、生後6か月以上の子どもを含むすべての年齢層を対象としてブースター接種を行うことを決めている。（ただしCDCがすべての年齢の人々に一価ワクチンを推奨するかどうかの決定はまだ出されていない）

日本政府は、9月から12月の間に、5歳以上の健康なすべての人々にブースターワクチンを投与する方針である。また、年1回の定期接種にするとみられている（松崎追加：〔追加接種〕令和5年春開始接種についてのお知らせ | 厚生労働省：「基礎疾患のない方は、令和5年9月～12月にかけて「令和5年秋開始接種」で追加接種を受けていただくことができます。接種するワクチンや具体的な接種時期、方法等の詳細については、決まり次第改めてお知らせします。」）

ボストン小児病院のワクチン専門家オファー・レヴィ氏は、このような方針（すべての年齢の人々にブースターワクチンを接種する）の意義を次のように説明している。「健康なあなたがワクチンを受けることで、あなたの身近な感染弱者を守ることができる。さらに、あなた自身がたとえ感染しても、病状をずっと軽くすることができる」と。

ブースターワクチン接種に関するWHOの方針は、健康な小児と高齢でない成人にワクチンを接種する必要性はほとんどないというものだが、ワイルダー・スミス氏は、たとえ効果が長く続かないとしても、ワクチン接種自体はある程度のベネフィットをもたらすから、日本政府とアメリカ政府の方針は（それなりに：松崎）リーズナブルだと述べている。

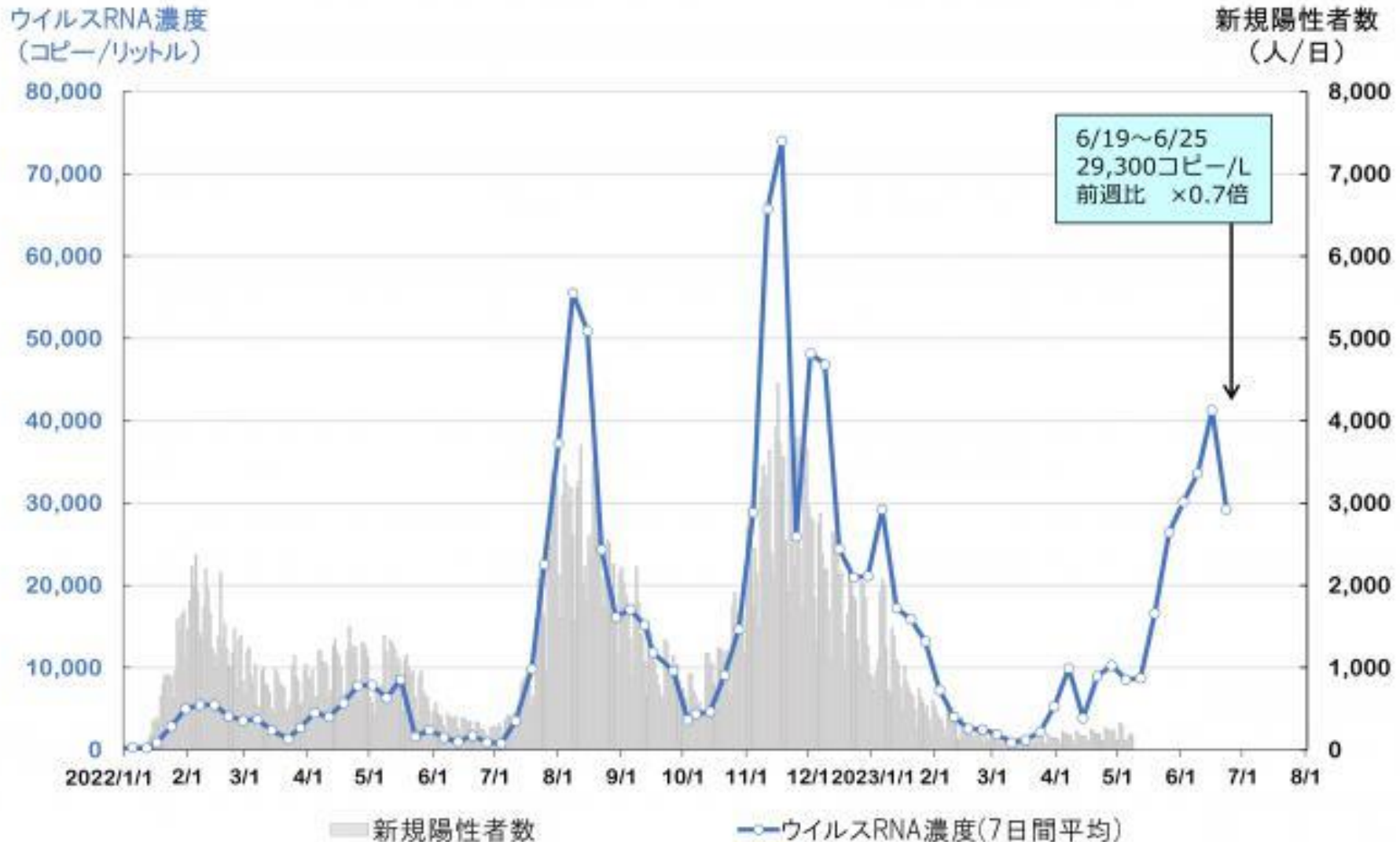
インフルエンザと同じと考えてはならないという意見

毎年全国民に新型コロナワクチンを定期接種するということになれば、同様に大部分の国民を対象としてきたインフルエンザワクチン接種事業と同じとみられるかもしれない。

しかしこの比較は当たらないだろう。なぜなら、これまでのところ新型コロナワクチンには、様々な変異株が発生しても重症化と死亡を結構防いできたという実績があるのは事実である。そして、WHOの勧告・推奨は、この18か月間に流行してきたオミクロン派生株の性質に対応して出されている。しかしながら、コロンビア大学のウイルス専門家デヴィッド・ホー氏は次のように警告する。「オミクロンの変異株は、元株から数珠つなぎに変異してきた。しかし、今後、とんでもない変異株が出ないとも限らないことを認識すべきだ」

札幌はやっとピークアウトしたかも…でも油断大敵

下水サーベイランスの結果（新型コロナウイルス）



インフルエンザは終息

下水サーベイランスの結果（インフルエンザウイルス）

